

# RENEWAL OPEN 2020 DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

## リニューアルオープン ドナルド・キーン・センター 柏崎

2020年  
令和2年 4月1日(水) OPEN

### リニューアル展示

ドナルド・キーンの歩み

2014～2019 ロンドン、ケンブリッジに還る  
評伝『石川啄木』執筆・刊行

ドナルド・キーン・センターは、なぜ、柏崎なのか

### 新たな常設展示

日本文学研究の原点

『源氏物語』とアーサー・ウエーリ  
太平洋戦争とドナルド・キーン

英文の展示概説

英語による音声ガイド(7月開始予定)

ケンブリッジ ケム川にて  
写真：宮澤正明

協力：一般財団法人ドナルド・キーン記念財団 猿八座 宮澤正明写真事務所 盛岡てがみ館  
キーン誠己 井原真理子 ジャスティン・ロビンソン ジャニーン・バイチマン  
田村祥男 鳥越文蔵 ローレンス・コムズ **ブルボン**

**ドナルド・キーン・センター 柏崎**  
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI  
公益財団法人 **ブルボン** 吉田記念財団





65年ぶりのケンブリッジ  
写真：宮澤正明

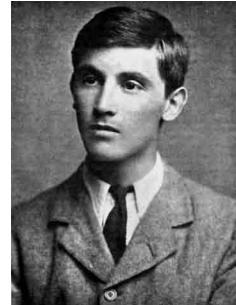
## 2020年度リニューアル概要

ドナルド・キーン先生は2019年2月24日に逝去されました。当センターは2013年9月に開館しましたが、それ以降のキーン先生の講演活動や著作・出版等については展示・紹介がなかったため、キーン先生を慕う来館者からは、開館以後のキーン先生の歩みや活動について知りたい、または日本文学研究の原点を見つめた特別企画展を常設展示化してほしい、などの声が多数寄せられました。ドナルド・キーン・センター柏崎は、それらの声に応え、英文による展示概説と英語による音声ガイドを新たに加えて2020年4月1日にリニューアルしました。(英語による音声ガイドは7月予定)

## 新たな常設展示 日本文学研究の原点 源氏物語とアーサー・ウェーリ

アーサー・ウェーリが1925年から1933年にかけて6分冊で出版した *The Tale of Genji* は、欧米の文学の世界に大きな反響を巻き起こし、名だたる新聞や批評誌はそれぞれに賞賛の言葉を贈り、ウェーリの翻訳を高く評価したのです。

1925年6月25日、「タイムズ文芸付録」は1300語に及ぶ書評でその内容を紹介するとともに、「日本の一大傑作」と称賛し、「モーニング・ポスト」紙も「ここにあるのは天才の作品である」と絶賛した。さらに海を越えたアメリカでも、7月26日付の「ニューヨーク・タイムズ」紙はその書評欄の巻頭で「日本の黄金時代」と題してこれを大きく取り上げ、「疑いもなく最高級の文学」であり、その翻訳はそれ自身が「文学的才能の成果」であると讃えた。



若き日のアーサー・ウェーリ  
ジョン・ロビンソン氏提供

宮本昭三郎著『源氏物語に魅せられた男  
—アーサー・ウェーリ—』序章より  
新潮選書1993年

## リニューアル展示

### ドナルド・キーンの歩み

### 2014～2019 ロンドン、ケンブリッジに還る

2017年、キーン先生はロンドンで古浄瑠璃「越後國柏崎 弘知法印御伝記」の里帰り公演が実現した折、師と仰いだアーサー・ウェーリの残像をゴードン・スクエアに訪ねました。さらに、忘れえぬエピソードに彩られた博士号論文執筆や「日本文学」についての5回にわたる連続講義など日本文学研究の礎となったケンブリッジ大学を訪ねたのです。それはドナルド・キーンの心の旅でした。

## 評伝『石川啄木』執筆・刊行

キーン先生が石川啄木の「ローマ字日記」と出会ったのは日本留学2年目の1954年。「その芸術は独創的であるばかりでなく、日本近代文学の一つの絶頂」と高く評価。以来、啄木はドナルド・キーンの重要な研究テーマとなったのです。そして2014年、60年余り調査・研究してきた石川啄木の評伝を「新潮」に連載開始。



評伝『石川啄木』執筆中 写真：宮澤正明

## 太平洋戦争とドナルド・キーン

太平洋戦争に語学将校として任官したドナルド・キーン。日本兵の日記や手紙などの翻訳もまた語学士官の重要な任務でした。そうした任務の中で、激戦地、ガダルカナル島で戦死した日本兵の日記を読み、戦場で綴られた日本兵の言葉や思いに心を揺さぶられ、深い感動に包まれていったのです。



日本兵の日記



日本兵捕虜に尋問するドナルド・キーン将校

そのような苦難と闘っている男たちが書いた日記を読んでいて、なんらかの感動を受けないわけにはいかなかった。これらの日記を書いた兵士たちは、いわば、私の最初の日本人の親友だったのである。

ドナルド・キーン著  
『このひとすじにつながりて』より抜粋  
朝日新聞社1993年

## 英文の展示概説

常設展示には、英文による概説を表示しています。

## 英語による音声ガイド(7月開始予定)

それぞれの展示の詳細な英語による解説は、音声ガイドで実施。この翻訳はキーン先生の教え子で、展示の「後を継ぐ者たちの肖像」で紹介するジャニー・バイチマンが担当しています。

## ドナルド・キーン・センターは、なぜ、柏崎なのか

2006年10月、「素晴らしい伝統芸術は、緑の美しい自然環境にふさわしい。それを生み出す和の心を育てたい」と柏崎の市民団体が日本の浄瑠璃とモンゴルの馬頭琴によるコラボレーションイベントを企画。体調を崩し、文楽座を辞めて郷里、新潟に帰っていた上原誠己(義太夫節三味線弾き五世鶴澤浅造)は、そのイベントに招かれ、柏崎市の史跡「飯塚邸」で義太夫節の弾き語りを再開。この活動が、ドナルド・キーン・センターが柏崎に誕生するきっかけとなってゆくののです。



馬頭琴と三味線を弾く奏者



## ドナルド・キーン・センター柏崎

DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

公益財団法人 ブルボン吉田記念財団

新潟県柏崎市諏訪町10-17 TEL 0257-28-5755  
www.donaldkeenecenter.jp/

開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)

休館日：毎週月曜日・火曜日

入館料：大人 500円(400円)

中高生 200円(160円)

小学生 100円(80円)

※( )内は20名以上の団体料金になります。